

報道関係者各位

2026年3月9日  
野村不動産ホールディングス株式会社

リリースカテゴリ：ウェルネス

## 野村不動産グループ 12 社が、「健康経営優良法人 2026」に認定

— 本社移転で目指すエンゲージメントの向上とウェルビーイングの実現 —

### 本ニュースリリースのポイント

1. 特に優れた健康経営を実践している大企業や中小企業等を認定する「健康経営優良法人」に、野村不動産グループ企業の 12 社が認定され、そのうち 5 社が大規模法人部門の上位法人であるホワイト 500 に認定
2. 今年度はグループ 8 社が「BLUE FRONT SHIBAURA TOWER S」へ本社移転したことにより、グループ各社同士の連携強化だけでなく、従業員の働き甲斐と働きやすさを向上も図っている

野村不動産ホールディングス株式会社（東京都港区／代表取締役社長：新井聡、以下「当社」）は、野村不動産グループ企業（以下、当社グループ）12 社が経済産業省と日本健康会議が共同で認定する「健康経営優良法人 2026」に認定されましたので、お知らせいたします。大規模法人部門においては「健康経営優良法人」上位 500 社は「ホワイト 500」とされており、当社および当社グループの 5 社がこの「ホワイト 500」にも認定されました。また、中小規模法人部門において昨年、初の「健康経営優良法人」認定となった 3 社についても連続して認定となっております。



健康経営優良法人認定制度は、地域の健康課題に即した取り組みや日本健康会議が進める健康増進の取組のもとに、特に優れた健康経営を実践している法人を顕彰する制度です。今年度は当社グループにおいて以下のとおり 12 社が認定されました。

## 1. 「健康経営優良法人 2026」認定企業

認定	企業 会社形態（株式会社）は省略	代表取締役社長	健康経営優良法人 受賞歴 (括弧内はホワイト500 受賞歴)
 <p>2026 健康経営優良法人 KENKO Investment for Health 大規模法人部門 ホワイト500</p>	野村不動産ホールディングス	新井 聡	7年連続 7回目 (3年連続 6回目)
	野村不動産ソリューションズ	日比野 勇志	8年連続 8回目 (8年連続 8回目)
	野村不動産	松尾 大作	7年連続 7回目 (3年連続 6回目)
	野村不動産投資顧問	片山 優臣	7年連続 7回目 (3年連続 6回目)
	野村不動産ライフ&スポーツ	小林 利彦	6年連続 6回目 (3年連続 3回目)
 <p>2026 健康経営優良法人 KENKO Investment for Health 大規模法人部門</p>	野村不動産パートナーズ	問田 和宏	5年連続 5回目
	プライムクロス	半田 昭博	5年連続 5回目
	野村不動産コマース	鶴沼 孝之	3年連続 3回目
	野村不動産ホテルズ	石井 康裕	3年連続 3回目
 <p>2026 健康経営優良法人 KENKO Investment for Health 中規模法人部門</p>	野村不動産熱供給	問田 和宏	2年連続 2回目
	野村不動産ウェルネス	笠原 一俊	2年連続 2回目
	ファースト リビング アシスタンス	上田 正和	2年連続 2回目

## 2. 当社グループの取り組みの一例

当社グループ（8社）は、各社の連携を強化するため、点在していたオフィスを集約し、野村不動産（株）が手掛ける芝浦地区の再開発プロジェクトによって誕生した「BLUE FRONT SHIBAURA TOWER S」へ本社移転を行いました。本社移転を通して目指す5つの価値のうちの一つに「Wellbeing UP」を掲げ、働く環境と仕組みにより、従業員一人ひとりの働き甲斐と働きやすさを高め、エンゲージメントの向上とウェルビーイングの実現を目指しています。

働く人々の健康とウェルビーイングに焦点を合わせた多くの仕掛けや仕組みの他、国際的なビル評価指標である、WELL 認証の取得を目指しており、事前認証の取得を完了しています。



**豊かな海へと誘うエントランス** 緑と光のラインが海へとつながる、曲線状に連なる木のルーバー。壁面によって段階的に明るさ、心地よさが広がっていくエントランス空間。



**目的にあわせて選べる多様さ** 執務スペースは約10種の機能を軸に構成。集中スペース、少人数での気軽なMTG、プレゼンテーション、リラックスなど。働く人のシーンに柔軟に対応します。



**共感を生み出すコミュニケーションの場** ARUMON CAFEでは社員同士の連携を促すとともに、健康面もサポート。自分に合ったフードも選べます。

当社グループは、企業が事業を継続し持続的に成長していくためには、従業員の心身の健康と安全が不可欠であるという考えから、グループの行動指針のひとつに「活き活きと働くウェルネスの実現」を掲げ、従業員が心身ともに健康で、活き活きと仕事に取り組むことができるよう「ウェルネス経営」を推進しております。

また、「野村不動産グループ倫理規程」において「健全で働きやすい職場環境の維持、向上を図る」と定め、安全・衛生管理を徹底し、過重・長時間労働や労働災害を防止するなど、従業員の心身の健康と安全を確保するための職場環境の整備と、意識啓発のためのコミュニケーションに努めております。

当社グループは、今後も、すべての従業員が心身ともに健康で活き活きと仕事に取り組むことが企業の持続的成長につながる「ウェルネス経営」を推進し、新たな価値創造を目指してまいります。

### 【ご参考①】 取組みに関する各種プレスリリース

・野村不動産グループ 4 社がスポーツ活動の促進に取り組む「スポーツエルカンパニー2026」および「令和7年度東京スポーツ推進企業」に認定（2026年1月30日）

URL : <https://www.nomura-re-hd.co.jp/cfiles/news/n2026012906557.pdf>

・野村不動産グループ 6 社 が「D&I AWARD 2025」において「BEST WORKPLACE」「ADVANCED」を受賞（2025年12月15日）

URL : <https://www.nomura-re-hd.co.jp/cfiles/news/n2025121506504.pdf>

・野村不動産グループ 6 社が「PRIDE 指標 2025」においてゴールド認定野村不動産ライフ＆スポーツは初のレインボー認定（2025年11月17日）

URL : <https://www.nomura-re-hd.co.jp/cfiles/news/n2025111706462.pdf>

・グループにおける男女および男性の育児休業取得率 100%を 2 年連続で達成（2025年9月10日）

URL : <https://www.nomura-re-hd.co.jp/cfiles/news/n2025091006378.pdf>

### 【ご参考②】 野村不動産ホールディングス株式会社 ウェルネス経営の推進

URL : <https://www.nomura-re-hd.co.jp/sustainability/social/worklife.html>

### 【ご参考③】 野村不動産グループのマテリアリティとSDGsについて

野村不動産グループ マテリアリティ		
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>DECARBONIZATION 脱炭素</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>BIODIVERSITY 生物多様性</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>CIRCULAR DESIGN サーキュラーデザイン</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>DIVERSITY &amp; INCLUSION ダイバーシティ &amp; インクルージョン</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>HUMAN RIGHTS 人権</p> </div> </div>		
本リリースの取組が該当するマテリアリティ	野村不動産グループの取組特色	本リリースの取組が特に貢献するSDGs(持続可能な開発目標)
 <p>DIVERSITY &amp; INCLUSION ダイバーシティ &amp; インクルージョン</p>	D&I推進方針の施策や、多様な人材の活躍を促進することを通じて社会ニーズに応えられる商品・サービスを提供していきます。	 

※野村不動産グループの重点目標（マテリアリティ）を国連のSDGs（持続可能な開発目標）に当てはめて整理しております。サステナビリティの取組み詳細は以下をご確認ください。

URL : <https://www.nomura-re-hd.co.jp/sustainability/>

#### 【ご参考④】

野村不動産グループ 2030 年ビジョン「まだ見ぬ、Life & Time Developer へ」の実現を目指し、グループ全体で、人びとの「幸せ」と社会の「豊かさ」の最大化を追求するため、2025 年 4 月に新たな経営計画を公表しました。

#### ＜経営計画における 3 カ年計画の事業方針＞

<b>基本方針</b>		グループ全体で事業量の拡大を図り、持続的な成長を実現しながら、バランスシートを適切にマネジメントし、高い利益成長と高い資産・資本効率を両立する。	
<b>事業方針</b>	<b>基幹事業</b>	分譲住宅事業・オフィス事業において、デベロップメント分野とサービス・マネジメント分野の連携を一層強化しながら商品企画力とサービス力を向上させ、確固たるポジションを構築する。	
	<b>注力領域</b>	持続的な成長に向けて、以下5つに注力する。	
		<b>1</b>	成長事業（賃貸住宅、ホテル、シニア住宅、物流施設）への重点的な投資
		<b>2</b>	開発事業、賃貸事業における投資家資金の導入
		<b>3</b>	グループ内連携、野村グループとの連携の強化
		<b>4</b>	海外事業の将来収益拡大に向けた取り組み
<b>5</b>	戦略投資（M&A）による成長の加速		

※3 カ年計画は長期経営方針を基に、今後 3 カ年で注力する事業方針を示したものになります。

※経営計画の詳細は【[野村不動産グループ 経営計画](#)】をご確認ください。